



# 我がまちのクラブ ～水戸ホーリーホックが あることの幸せ～



株式会社 日本経済研究所  
ソリューション本部

研究主幹 小原 爽子

Jクラブは、きちんと活用されれば、まちの財産となりうる貴重な存在だ。まちとクラブがともに成長するビジョンを持つことで、市民は大きな楽しみを得るとともに、水戸ホーリーホックをもっと有効活用する方法を発見できるはずだ。

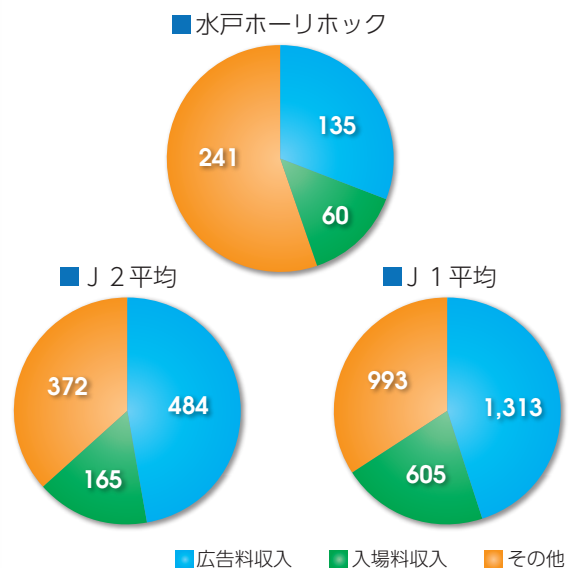
2013年6月15日、J2第19節の「水戸ホーリーホックVSガンバ大阪」の試合を観戦した。J1でも屈指の人気と実力を誇ったガンバ大阪が対戦相手ということで、ホーリーホックのホームゲームでは、珍しく入場者数が1万人を超えた試合となった(この試合を除く今期の平均入場者数は約4千人)。また、2-0で敗れたとは言え、ホーリーホックの選手はひるむことなく攻撃を仕掛け、懸命なプレーを見せ続けたこともあって、会場も大いに沸いていたように思う。

一方で、水戸ホーリーホックを取り巻く現状は厳しい。ホーリーホックの営業収益(売上)は、約4億4千万円であるが、J1・J2を合わせた全てのJクラブの中で、最下位にある(2011年度。2008～2010年度の3年平均でも最下位)。営業収益は、主に、入場料収入、広告料収入、その他収入(Jリーグからの配分金、グッズ売上、移籍金収入など)の3つに分かれるが、ホーリーホックでは、入場料収入、広告料収入ともに、J2最下位クラスである。

その要因は、一言で言えば、水戸市民が「我がまちのクラブ」としてホーリーホックを受け入れきれていない点にあると思われる。

Jリーグの観客は、その9割が地元ホームタウンの人々である。地元の人々が、試合を見に行かなければ、入場料収入は増えない。また、スポン

■水戸ホーリーホックの営業収益(百万円)



出所：「2011年度(平成23年度)Jクラブ個別経営情報開示資料(Jリーグ)」より日本経済研究所作成

サーもその多くは地元企業であるため、地元の人が見に行かないクラブには、自ずとスポンサーがつかず、広告料収入も伸び悩む。母体企業のあるクラブ(特定の企業が株式の多くを所有し、資金的・人的支援を行っているクラブ)の中には、観客が少なくても企業が資金を投入してくれるため、成り立っているクラブがあるが、ホーリーホックのような、J2の大半を占める「まちクラブ」(母体企業のないクラブ)は、そうはいかない。

さらに、ホーリーホックには他クラブにはない

苦しい大前提がある。同じ茨城県内に、鹿島アントラーズという超一流Jクラブがあるということだ。Jリーグが毎年実施している「スタジアム観戦者調査」の観客の居住地を見ると、水戸ホーリーホックを観戦する水戸市民と同程度の水戸市民が、鹿島アントラーズの試合を観戦していることがわかる。

#### ■鹿島アントラーズと水戸ホーリーホックにおける水戸市民の観戦者数

	観戦者数	観戦者の居住地上位3市区郡			
		水戸市	鹿嶋市	守谷市	
鹿島アントラーズ	15,118人	7.8%	3.8%	3.5%	
水戸ホーリーホック	4,413人	29.2%	8.7%	7.5%	

鹿島アントラーズにおける観戦者数 15,118人×7.8%=1,179人  
水戸ホーリーホックにおける観戦者数 4,413人×29.2%=1,289人

出所:「Jリーグ スタジアム観戦者調査2012 サマリーレポート」より  
日本経済研究所作成

これと同様に、水戸周辺のスポンサーもアントラーズに流れている可能性がある。また全国及び地元マスコミもアントラーズの報道が圧倒的に多いため、地元への浸透も難しい。奇しくも東日本大震災の際にスタジアムが損傷し、試合開催が危機的状況になったことがきっかけとなって、水戸

市や地元住民から資金援助が行われ、ホーリーホックへの注目度が高まったが、この時初めて「ホーリーホックは、水戸のクラブなんだ」と自覚した人も多いのではないか。

多くのJクラブを調査してみると、Jクラブには下記のような様々な効果があることがわかって

- ⚽ Jクラブは、地域愛の源泉となり、コミュニティ活性化の一助となる
- ⚽ まちの子どもに夢を与え、子どもの育成を担う
- ⚽ Jクラブの活動を報道することにより、地域の報道にオリジナリティが生まれる
- ⚽ Jクラブは、ブランドとしての価値があり、自治体や企業は、Jクラブと連携することによって、ブランド価値の活用が可能である
- ⚽ Jクラブのホームゲームがあることによって、まちが活性化するとともに、市民の日常に「少しだけ非日常的な」空間と経験が生まれる



ガンバ大阪を迎え撃つ水戸ホーリーホックのサポーター

Jクラブは、地元の人が観戦すること、スポンサーとなること、報道することなどにより、経営的に安定・成長し、強いチームとなり、水戸市民の夢を体現する主体となってくれる。

Jクラブのあるまちは、全国で40カ所しかない。我がまちにJクラブがあることの幸福に、水戸市民はぜひ気づいていただきたい。